

本日は、多くの方々に三沢にお集まりいただき、ありがとうございます。本日は、皆さんとご一緒できずに残念ですが、外務省として米国の友人と新たなイベントを開催できることを嬉しく思います。

プログラムに参加される皆さんにおかれては、交流の中で、互いに手を差し伸べ、今日から日米の架け橋として活躍することを願っています。こうした交流の積み重ねこそが、相互理解の促進や国と国との関係強化につながっていきます。

また、日本人学生にとって、英語力をさらに磨く良い機会となれば嬉しく思います。自分自身の経験を振り返ってみても、ネイティブスピーカーとの交流が言語を身につける一番の方法であると確信しています。

アメリカンスクールの皆さんには、三沢での生活の中で、日本語を勉強するのみならず、日本の様々な自然、歴史、文化に触れ、この経験を今後の人生に是非活かしてください。

今から約10年前、東日本大震災がこの東北を襲ったとき、ここ三沢飛行場はトモダチ作戦に参加する在日米軍と自衛隊との共同活動拠点となりました。また、多くの米軍関係者ボランティアが被災地を訪れ、支援活動を行い、そこで多くの交流も生まれました。東北の復旧・復興に向けた在日米軍の尽力を思い起こすと、胸が熱くなります。

また、更に時をさかのぼって1966年、史上に残る大火事が三沢市で起こった際、三沢飛行場の米軍消防隊が、我が身の危険を顧みずに消火活動の応援に駆けつけてくれたと聞いています。

このような日米間の心の交流が根付いた三沢は、このプログラムを立ち上げるのに、最もふさわしい地と言えるでしょう。

この素晴らしいイベントの開催を可能にして下さった米国防省教育部、在日米軍関係者及び三沢市の皆様に厚く感謝申し上げます。

このプログラムを通して、新たな友情が育まれることを祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

外務大臣 茂木敏充